

2023 年度 早稲田大学文学研究科 進学説明会

社会学コース オリエンテーション

参考資料

1. 2023 年度在籍教員の専門分野
2. 過去の修士論文題目一覧（2006-2022）
3. 専門社会調査士資格説明

大学院社会学コースのホームページ

<http://www.waseda.jp/sociology/graduate.htm>

（リンク: 文学学術院 TOP ページ > 文学研究科 >
コースの紹介 > 修士課程 > 社会学コース）

お問い合わせ先: sociolab101@list.waseda.jp（池本・酒井）

1. 2023 年度在籍教員の専門分野

*** 2024 年度研究指導募集の有無については、出願までに必ず 2024 年度入試要項にてご確認ください。**

池田祥英

専門はフランス社会学説史で、特に 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて活躍したガブリエル・タルドの社会学について研究している。これまでは「模倣」という概念に基づくタルドの社会学理論、およびその応用としての犯罪論やメディア論について、当時の歴史的背景を踏まえながら検討してきた。そのほか、同時代のフランスでタルドと論争を交え、一学問分野としての社会学を確立したエミール・デュルケーム、およびデュルケーム学派との関係や、現代の社会学理論との関係についても明らかにしていこうと考えている。

石田光規

現代社会の人間関係について多様な観点から検討している。具体的には、個人化していく社会における人びとの孤立、郊外および山村における地域のつながりの行く末、友人関係の経年変化などである。いずれの研究も、社会の変化が、私たちの「つながり」にどのような影響を与えるのか、を問題関心としている。近年は、私たちの居場所の問題、テクノロジーの進歩とつながりについての研究を進めている。

大久保孝治

個人が自分の人生を語る（告白する）という行為自体がすでに近代的な現象であり、「人生の物語」はその時代その時代の社会（あるいは国家）のありようを反映していると考えられる。近代日本人の「人生の物語」（生き方をめぐる規範と語り口）の生成と変容の過程を、ポピュラーカルチャーやライフストーリー（口述生活史や自伝、インタビュー記録など）、並びに社会意識調査のデータの分析を通して、明らかにしていく。

岡本智周

専門は教育社会学、共生社会学、歴史社会学、ナショナリズム研究、社会意識研究。研究の主軸は、① 国民国家論と② 共生社会論に据えている。①においては、世界をネーション単位で認識しようとする観念自体を研究対象とし、現代社会におけるその生成・維持・変容に対して、学校教育をはじめとする人間の社会的行為がいかに関与しているのかを理解することを目的としている。②においては、ナショナリズム・エスニシティ、ジェンダー、身体、世代、階級・階層の相違をめぐる社会的葛藤・対立の分析と、社会的共生のための理路と資源の探索を行っている。

草柳千早

「相互作用としての社会」という方法的視点から社会問題、社会関係、自己、身体等の諸問題を研究する。その一環として、1) 個人的とされるさまざまな問題がよりマクロな社会問題へと媒介されていく過程の理論的・経験的に研究、2) 間身体的な過程としての相互作用分析等をすすめている。

嶋崎尚子

社会学の分類にしたがえば、家族社会学、ライフコース論、社会変動論、歴史社会学といえる。社会的分析次元間の連結を目指して理論的・方法的・実証的研究をしている。空間的には、マクロ・ミクロの連結であり、時間的には、時代・コホート間の比較である。

竹中均

広い意味での比較社会的なアプローチに関心がある。このアプローチ自体は広範な適用範囲を持つが、興味を持っているのは、比較社会的な視点から自閉症をめぐる問題を論じることが出来ないだろうかという点と、民藝と呼ばれる工芸文化をやはり比較社会的な視点で論じられないだろうかという点である。両者は全く別物に見えるが、どちらも、今ここにある社会のあり方を比較のパースペクティブの中で見直したいという趣旨では通底していると思われる。

田辺俊介

政治社会学、社会意識に関する経験的研究、社会調査方法論。特にナショナリズムや政治意識などの社会意識を主たる研究対象としている。方法論としては、主に量的社会調査によって得たデータの統計分析を用いているが、社会調査の方法論一般についても研究し、その方法面での理論化・精緻化を目指している。

樽本英樹

専門は国際社会学、社会学理論、政治社会学。現在興味を持っているのは、(1) 西欧、北米、東アジア諸国を対象とした比較移民政策論、(2) 国際移民をめぐる排外主義と過激主義の展開、(3) 日本における移民市民権政策の決定メカニズム、(4) 英国のナショナル・アイデンティティと移民の緊張関係である。以上のトピックを、理論と実証の往復およびマクロとミクロの規定関係に留意しつつ研究を行っている。一方、教育は移民・外国人に留まらないグローバル化に関する社会現象全般、およびヨーロッパ社会論を射程においている。

津田（木村）好美

専門は、社会階層論、老年学です。特に社会階層に関する問題について、理論的・経験的に研究を行っています。具体的には、高齢期における生活格差をめぐる問題について、過去の最長職や家族関係、社会関係資本、ライフスタイルや意識等に注目し、研究を進めています。近年は、関東近郊の階層構造に関するプロジェクトに参加し、都市と階層構造についても研究関心を深めています。

土屋淳二

文化変動論、集合行動論、感性社会学、社会学説史研究。

西城戸誠

専門は、環境社会学、地域社会学、社会運動研究です。最近では、再生可能エネルギーに関わるアクティビズム、エネルギー事業と地域社会の受容性に関して国内外の事例研究を行っています。また、東日本大

震災と原発事故後は、津波被災地の地域再生、原発避難者に対する支援に関する実践的な研究も行ってきました。今後は、これらの研究の他に、以前行っていた社会運動のイベントデータ分析や、生活クラブ生協に関する事例研究、炭鉱における女性の活動に関する実証的な研究を行うつもりです。

山田真茂留

専門分野は集団・組織論、理論社会学、宗教社会学。これらをもとにして、集合的アイデンティティ研究、組織文化研究、価値意識研究、学術出版業界研究などを展開している。

★2023 年度社会学コース設置科目講義要項★

Web シラバス

<https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>

プルダウン
「学部」→「文研」を選択

プルダウン
「科目管理主体」→
「34 124 社会学コース」を
選択

キーワード		*キーワードにはコース・コードを指定して検索することができます
分野コード	大分類を絞ってください 	■早稲田大学分野コード表 ■コース・ナンバリング制度について
レベル		
科目名		*科目名の一部を指定しての検索が可能です(※前後方一致) 例:経済
教員名		*教員名の一部を指定しての検索が可能です(※前後方一致)
学期		
曜日		*無:集中講義、オンデマンド授業のような実施曜日を指定できない科目を検索 *空白:実施曜日にかかわらず科目を検索
時限		
授業で使用する言語		
オープン科目	☐	*全学オープン科目とは、専攻分野にとらわれず、どの学部にも所属する学生でも履修できる全学共通の科目です
学部	文研	
科目管理主体	34 124 社会学コース	
検索 検索条件クリア 過年度シラバス検索へ		

2. 過去の修士論文題目一覧（2006-2022）

年度	論文題目	指導教員	副査	副査
2022	寛容の虚実	田辺 俊介	岡本 智周	津田 好美
	中小企業における LGBT に関する制度策定の機制	岡本 智周	嶋崎 尚子	津田 好美
	マルセル・モースにおける「人間」の両義性	草柳 千早	池田 祥英	御子柴 善之
	アイドルとファンの関係に関する社会学的分析	山田 真茂留	田辺 俊介	草柳 千早
	「声」をいかに聞き取るか	草柳 千早	山田 真茂留	西城戸 誠
2021	月経を病因とした女性の精神疾患の歴史社会学	草柳 千早	土屋 淳二	竹中 均
	現代女性はなぜ脇毛を披露するのか	草柳 千早	池田 祥英	嶋崎 尚子
2020	「ひきこもり」「ニート」概念を活用した活動の様相	草柳 千早	大久保 孝治	竹中 均
	市場経済体制における「成人期への移行」の出現	嶋崎 尚子	山田 真茂留	津田 好美
	写真を中心とした自己呈示	山田 真茂留	大久保 孝治	岡本 智周
	生物学化する障害の社会構築性	山田 真茂留	岡部 耕典	竹中 均
	デジタルゲームにみるジェンダー構造	嶋崎 尚子	津田 好美	山田 真茂留
	集合的記憶論再考	草柳 千早	池田 祥英	竹中 均
	中国家族の行方	津田 好美	大久保 孝治	嶋崎 尚子
	文化としての＜コミュニケーション＞	竹中 均	大久保 孝治	草柳 千早
2019	現代日本のフェミニズムにおける包摂と排除	山田 真茂留	草柳 千早	津田 好美
	大学の権威と数的秩序	竹中 均	大久保 孝治	岡本 智周
	「自己肯定感を高める」の社会学的再考	草柳 千早	竹中 均	大久保 孝治
	組織からの逃走の困難性	草柳 千早	山田 真茂留	竹中 均
	文芸を介した連帯	竹中 均	山田 真茂留	土屋 淳二
	中国における若者文化の対抗性	山田 真茂留	竹中 均	津田 好美
2018	中国都市部における高学歴高収入の未婚女性の意識に関する研究	大久保 孝治	草柳 千早	嶋崎 尚子
	ハッ場ダム建設地域における住民運動と生活再建の研究	浦野 正樹	嶋崎 尚子	草柳 千早
	道徳とコミュニケーション	那須 壽	草柳 千早	竹中 均
	責任と現実	那須 壽	竹中 均	草柳 千早
2017	合理的選択理論からする「個人化論」再考	和田 修一	浦野 正樹	嶋崎 尚子
	日本の若者が抱く排外主義の規定要因分析	田辺 俊介	嶋崎 尚子	津田 好美
	中国における「一人っ子」家庭の家族関係をめぐる意識の変化	津田 好美	嶋崎 尚子	大久保 孝治
	「心の専門家」の制度的展開	山田 真茂留	木村 好美	那須 壽
2016	「信頼社会」構想の再検討とその可能性の探求	草柳 千早	那須 壽	竹中 均
	日中国際結婚に見る中国人女性の就労と子育ての葛藤	大久保 孝治	嶋崎 尚子	山田 真茂留
	アクティブラーニングによる学習成果の規定要因	木村 好美	和田 修一	田辺 俊介
	中国北京市における「初代一人っ子親世代」の扶養・介護問題に関する考察	嶋崎 尚子	山田 真茂留	和田 修一
	女性同性愛者はどのような「差別」を経験しているのか	草柳 千早	大久保 孝治	岡部 耕典
2015	「望ましい人材」の変遷と現代社会	山田 真茂留	草柳 千早	竹中 均
	裁判員裁判における「市民感覚の反映」	草柳 千早	嶋崎 尚子	山田 真茂留
	社会的世界の構成と匿名性	那須 壽	竹中 均	草柳 千早
	現代の教師が有する子ども観についての社会学的分析	和田 修一	岡本 智周	竹中 均
	地域社会の変容と成人期への移行の世代間比較	嶋崎 尚子	浦野 正樹	沖 清豪
2014	広告業界における自律の論理	木村 好美	山田 真茂留	田辺 俊介
	炭鉱機械化の促進因としての労働者エートス	浦野 正樹	嶋崎 尚子	和田 修一
	一人称の感情社会学の展開	竹中 均	大久保 孝治	土屋 淳二
	精神医学における「人々の作り上げ」	草柳 千早	土屋 淳二	竹中 均
	日本と韓国における外国人労働者受入れ政策の比較分析	和田 修一	坂田 正顕	嶋崎 尚子

2013	地域密着型労働組合の社会学的研究	和田 修一	浦野 正樹	中村 圭介
	言えないから言わないへ	大久保 孝治	長田 攻一	草柳 千早
	社会調査の比較社会学	那須 壽	嶋崎 尚子	池岡 義孝
	中国における教育の不平等	山田 真茂留	沖 清豪	竹中 均
	イギリスにおける福祉機能の組み換えと下層労働者層の流入	浦野 正樹	長田 攻一	嶋崎 尚子
2012	「同性愛差別」再考	草柳 千早	長田 攻一	山田 真茂留
	個人と社会の相互作用の回復	森 元孝	坂田 正顕	嶋崎 尚子
	クレイム申し立てのカルチュラル・スタディーズ	草柳 千早	坂田 正顕	岡部 耕典
2011	過疎地域における地域産業の復興と地域社会の持続可能性	浦野 正樹	長田 攻一	坂田 正顕
	タルコット・パーソンズと普遍主義の射程	山田 真茂留	長田 攻一	坂田 正顕
	他者と共にある世界の構成について	森 元孝	竹中 均	那須 壽
	歪められた身体	土屋 淳二	草柳 千早	坂田 正顕
2010	E.ゴフマンの儀礼論における射程と視座	長田 攻一	草柳 千早	那須 壽
	地域活動の多様化と文化的創造性	浦野 正樹	長田 攻一	坂田 正顕
	現代中国における権威主義と腐敗	坂田 正顕	長田 攻一	浦野 正樹
	若手芸術家の〈生産〉	草柳 千早	浦野 正樹	坂田 正顕
2009	自傷行為に対する当事者の認識と心理職・精神医療従事者の認識に関する質的研究	嶋崎 尚子	草柳 千早	周藤 真也
	フーコーと国家	那須 壽	森 元孝	桜井 洋
	消費社会と倫理的消費	山田 真茂留	和田 修一	土屋 淳二
2008	身体作法の系譜	長田 攻一	大久保 孝治	山田 真茂留
	「テレビ・オーディエンス」再考	長谷 正人	長田 攻一	伊藤 守
	アルチュセールにおけるイデオロギーと主体概念の再構築	長谷 正人	長田 攻一	那須 壽
	まちづくりと新しい文化的実践の定着	浦野 正樹	森 元孝	山田 真茂留
	ライトノベルの文化生産	長谷 正人	山田 真茂留	大久保 孝治
	ゲオルグ・ジンメル社会学理論	那須 壽	森 元孝	桜井 洋
2007	戦争のイメージ化と身体	長谷 正人	長田 攻一	伊藤 守
	自主上映の社会学考察	長谷 正人	浦野 正樹	伊藤 守
	「国民」の創出過程における近代日本音楽教育の役割	和田 修一	嶋崎 尚子	小沼 純一
2006	念写写真のメディア史考察	長谷 正人	長田 攻一	若林 幹夫
	「ひきこもり」の社会学的研究	和田 修一	長田 攻一	大久保 孝治
	グローバリゼーション論	森 元孝	那須 壽	桜井 洋

※2005 年以前は社会学コース web ページを参照のこと
[http://www.waseda.jp/sociology/daimoku\(syusa%20fukusa\).htm](http://www.waseda.jp/sociology/daimoku(syusa%20fukusa).htm)

2023 年度 社会学コース 専門社会調査士資格説明

● 社会調査士・専門社会調査士とは

「社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する『調査の専門家』のこと」（社会調査協会 HP より）

- ・社会調査士資格は、社会調査協会（日本教育社会学会、日本行動計量学会、日本社会学会が中心となって 2003 年設立）が 2004 年から認定している資格です。「社会調査士」と「専門社会調査士」の 2 種類があります。国家資格ではありません。

一般社団法人 社会調査協会 <http://iasr.or.jp/>

- ・「社会調査士」は、社会調査協会の標準カリキュラムに対応する 7 科目（A～G、E・F は選択）のうち 6 科目を履修し、単位を修得することで取得が可能になります。

- ・「専門社会調査士」の申請条件は、

- ① **社会調査士資格**を有し、
- ② 大学院で社会調査協会の**標準カリキュラム対応 3 科目（H・I・J 科目）を履修・単位修得**し、
- ③ **社会調査の結果を用いた研究論文（修士論文を含む）を執筆**し、
- ④ **修士課程を修了**することによって取得が可能になります。

※大学院入学時点で社会調査士資格がなくとも「同時申請」（後述）という方法によって専門社会調査士を取得することが可能です。

● 取得に向けての注意【重要】

- ・「専門社会調査士」資格取得を希望する場合は、標準カリキュラムに対応する科目を計画的に履修し、単位を修得してください。
- ・「専門社会調査士」資格を取得するためには、「社会調査士」資格を所持しているか、同時に取得を申請する必要があります。「社会調査士」資格を所持していない方が「専門社会調査士」資格を取得する場合は、次頁以降を参考に「同時申請」を行ってください。
- ・資格取得の申請には、審査・認定手数料（33,000 円（「社会調査士」同時申請の場合は 44,000 円）がかかります。
- ・早稲田大学文学研究科社会学コース以外で設置されている対応科目を履修し単位取得することによって資格申請することも可能です。ただし、自身の所属箇所と異なる箇所の設置科目は履修できない可能性があります。他コースおよび他箇所・他機関の設置科目について社会学コースは関知していませんので、履修可否や履修科目の証明の扱いなどについては、必ず自身で所属事務所（もしくは所管機関）に確認してください。
- ・早稲田大学文学研究科社会学コース以外で設置されている認定科目については下記で調べられます。
社会調査協会「社会調査士資格制度参加校」「専門社会調査士資格制度参加校」
http://iasr.or.jp/for_students/participation/
- ・資格申請書類の受付は、社会学コースが各年度末の受付日に一括して行います。取得を希望する人は次の手順に従い、申請を行ってください。
 - ① 社会調査協会のサイトを熟読の上、申請希望の年度 2 月指定日までに申請予定の旨を社会学コース助手に申し出てください（2 月上旬までに社会学コース大学院 HP に日程を告知予定）。
 - ② 申請に必要な書類を、各自で社会調査協会のサイトで確認し計画的に準備し、社会学コース指定の受付日（例年 3 月下旬）に書類を提出してください。（特別な事情がある場合を除き、受付日を

過ぎての資格申請書類の提出は受け付けられませんのでご注意ください。）

- ・資格申請の書類は、協会 HP および本資料を確認の上、各自でご準備ください。なお、**社会調査協会のシステム変更に伴い、資格申請の方法が今後変更になる可能性があります。申請前に各自で必ず社会調査協会 HP を確認するようにしてください。**

● 専門社会調査士 標準カリキュラム

【 H 】 調査企画・設計に関する演習（実習）科目

社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力を習得する科目。調査方法論、調査倫理を踏まえ、調査方法の決定、調査企画と設計、仮説構成、調査票の作成、サンプリングないし対象者・フィールドの選定、実査、調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング、フィールドノート作成、コードブック作成）、比較的簡単な量的分析とグラフ作成、質的な分析、以上に基づく報告ペーパーの作成などに関する実践的な授業科目。（90分×15週）

【 I 】 多変量解析に関する演習（実習）科目

数理統計学の基礎を踏まえながら、多変量解析（重回帰分析、パス解析、分散分析、共分散分析、ロジニア分析、ロジット分析、主成分分析、因子分析、多次元尺度法、クラスター分析、数量化理論、生存時間分析、共分散構造分析など）に共通する計量モデルを用いた分析法を基本的に理解し、それらのうちのいくつかについては、コンピュータを用いて実際に使用することのできる能力を習得する科目。（90分×15週）

【 J 】 質的調査法に関する演習（実習）科目

新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送、音楽などの質的データの分析法（内容分析等）を習得するとともに、さまざまな質的調査法（聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析、会話分析など）に関する基本的理解を踏まえながら、そのあるものについての実践的な能力を習得する科目。（90分×15週）

● 文学研究科社会学コースにおける標準カリキュラム対応科目

	授業科目名	開講年度	曜限	担当者	認定番号
2024 年度					
I	多変量解析特論	2024		(未定)	
J	質的調査法特論	2024		(未定)	
2023 年度					
H	調査企画・設計特論	2023	秋・水 3	石田賢示	WASz-230101-0
I	多変量解析特論	2023	春・月 2	香川めい	WASz-230201-0
2022 年度					
H	調査企画・設計特論	2022	秋・水 3	石田賢示	WASz-220101-0
J	質的調査法特論	2022	秋・金 2	麦倉泰子	WASz-220201-0

● 社会調査士・専門社会調査士の同時申請について

- ・「社会調査士」資格を持たない方が「専門社会調査士」資格を申請するためには、「専門社会調査士」と「社会調査士」を同時に申請します。
- ・同時申請を希望する際は、上記の H～J 科目に加えて必要な科目は「社会調査士」A～F 科目（E、

F科目は選択制）です（同時申請の場合はG科目が免除されます）。

- ・出身大学・学部によっては、学部生のときに「社会調査士」標準カリキュラムに対応した科目を履修済みの可能性もありますので、社会調査協会 HP の所定ページにて履修済みの科目の有無について確認してください。

参考：社会調査士および専門社会調査士資格制度参加校 一覧

http://jasr.or.jp/for_students/participation/

- ・単位修得していない科目がある場合は、文学部社会学コースなどで開設されている対応科目を履修してください。ただし、自身の所属と異なる箇所設置科目は履修可否に関しては、所属箇所（もしくは設置箇所など）に問い合わせください。
- ・社会調査協会主催の S1 科目・S2 科目を受講することによって単位修得をすることも可能です。S 科目は、社会調査士の資格を取得していない大学院生が、本科目を履修することによって、同時申請によって社会調査士資格を申請できるようにするために開講するものです。詳しくは協会 HP を参照。

<http://jasr.or.jp/activity/seminar/>

【2023 年度文学部社会学コース 社会調査士標準カリキュラム対応科目】

	授業科目名	担当者	曜限	コース・カリキュラム
A：社会調査の基本的事項に関する科目				
	社会調査法 1	岡本 智周	春・火 4	2 年必修
B：調査設計と実施方法に関する科目				
	社会調査法 2	笹野 悦子	秋・無フル OD	2 年必修
C：基本的な資料とデータの分析に関する科目				
	社会統計学 1	津田 好美	春・火 1	選択（2 年・3 年・4 年）
D：社会調査に必要な統計学に関する科目				
	社会統計学 2	津田 好美	秋・火 1	選択（2 年・3 年・4 年）
E：量的データ解析の方法に関する科目			E か F のどちらかひとつ	
	データ解析 1（量的分析）	(2024 年度開講予定)		選択（2 年・3 年・4 年）
F：質的な分析の方法に関する科目			E か F のどちらかひとつ	
	データ解析 2（質的分析）	笠原 良太	秋・月 2	選択（2 年・3 年・4 年）
G：社会調査の実習を中心とする科目				
	社会調査実習 1	河野 昌広	春・水 3	選択（3 年・4 年）
	社会調査実習 2		秋・水 3	選択（3 年・4 年）

※ E 科目と F 科目は隔年で開講されます。資格取得に必要なのは、E 科目・F 科目どちらか 1 つです。

※ 文学研究科大学院生（修士課程）が文学部の社会調査士科目を履修する場合、「随意科目」となります。文学部の授業を文学研究科以外の院生が受講することはできません（2018.4 確認）

※ 他箇所設置科目の履修可否などに関しては、設置箇所および所属箇所に問い合わせください。

● 申請方法

- ・資格取得の手続きは、文学部社会学コースが毎年 3 月下旬の指定日に一括して行います。2 月指定日までに社会学コース助手まで資格取得希望を申し出た上で、期日までに協会指定の申請書類をそろえて提出してください。
- ・下記の情報は 2023 年 3 月現時点での情報です。今後変更になる可能性があります。必ず申請前に各自

で社会調査協会 HP を確認の上、準備をするようにお願いいたします。

専門社会調査士（正規）申請方法・手順 http://jasr.or.jp/for_students/guidance/capaappl_sp/

☐①専門社会調査士認定申請書

…専用の様式ファイルを社会調査協会サイトからダウンロード。

☐②履歴書

…専用の様式ファイルを社会調査協会サイトからダウンロード。

☐③単位修得・修士修了を証明する書類を証明する書類

…「成績・修了証明書」などを大学に発行してもらう。該当科目にマーカーを引き、対応科目番号（H～J）を記入。

☐④社会調査を用いた研究論文（2部）

…審査用の論文。同じものを2部用意する。

☐⑤研究論文概要説明書

…専用の様式ファイルを社会調査協会サイトからダウンロード。

☐⑥審査・認定手数料の振替払込受領書のコピー

…審査・認定手数料（33,000 円、同時申請の場合 44,000 円）を郵便局で払い込んだあと、受領書のコピーを取って申請書の裏に貼り付ける。

【振替先（郵便局）】 口座番号：00110-1-654739

加入者名：一般社団法人 社会調査協会

* 払込用紙の「ご依頼人」欄に、大学名・学籍番号・氏名を明記。

* 必ず郵便局の払込用紙を利用すること。社会学研究室に専用の払込用紙があります（必要な方は、担当者の社会学研究室在室時間帯に取りにお越しください）。

☐⑦社会調査士認定申請書（★同時申請の場合のみ必要）

…社会調査協会の専用の Web システムで入力・出力。

☐⑧単位修得を証明する書類（★同時申請の場合のみ必要）

…「成績証明書」など、A～F 科目の単位を修得した大学や機関に発行してもらう。対応科目番号（A～G）を記入。

●「専門社会調査士（8条規定）」について（補足）

- ・上記の HIJ 科目の履修による取得（＝「正規」の方法）ではなく、論文等の審査による資格取得の方法です。要件を満たす人は、専門社会調査士の申請をすることができます。昨年度に申請要件が変更されました。
- ・社会学コースなどを通じて申請するのではなく、個人が協会に直接申請するものです。不明な点は直接協会にお問い合わせください。
- ・詳細情報はこちら http://jasr.or.jp/for_students/guidance/capaappl_sp8/

● 参照先・問合せ先

・社会学コース以外で設置されている認定科目についての情報

→設置箇所について：社会調査士および専門社会調査士資格制度参加校 一覧

http://jasr.or.jp/for_students/participation/

・所属箇所設置以外の履修等についての問い合わせ：

所属箇所の事務所（もしくは設置所轄機関・箇所）にお問い合わせください。

・社会学コースにおける社会調査士・専門社会調査士申請の受付全般についての質問

※必ず本資料と社会学コース HP および社会調査協会 HP を熟読した上でご連絡ください。

→社会学コース 社会調査士・専門社会調査士申請受付係（31 号館 101 社会学研究室 内）

在室時間（授業期間の月・木 13:00～18:00）

連絡宛先（sociolab101@list.waseda.jp）

上記以外の期間・時間帯は返信が遅れることがあります。

土日祝日・年末年始は休業します。

※社会学コースにおける社会調査士・専門社会調査士資格申請の受付に関する今後の最新情報は下記に掲載予定です。定期的にご確認ください。 社会学コース大学院ホームページ

<http://www.waseda.jp/sociology/graduate.htm>